

第68回日本小児保健協会学術集会報告

第68回日本小児保健協会学術集会を振り返って
～オードリー・タン大臣について思うこと～公益社団法人日本小児保健協会
会長 小枝 達也

2021年6月18日より3日間にわたり、第68回日本小児保健協会学術集会が開催されました。会頭の宮城雅也先生ならびに沖縄県小児保健協会会員の皆様のご尽力により、学術集会は大成功でした。教育講演やシンポジウムなど、これまでにない数々のプログラムで構成された実にレベルの高い大会となりました。関係者の皆様には、改めまして衷心より感謝申し上げます。

多種多様なプログラムの中でもひととき注目を集めたのが、台湾のオードリー・タン大臣（以下、唐大臣）の講演でありました。当初はご講演と聞いていましたが、唐大臣のご希望により、小職との対談という形になりました。

対談と聞いて、一瞬たじろぎましたが、ここで引いては男が廃ると思ってお引き受けいたしました。台湾と那覇、東京（同時通訳）の3か所を結んでのWeb対談という形で、どこか一か所でも通信不良になるとすべてが台無しになるという極めて緊張度の高い状況でのライブ配信でありました。実は3か所からの配信を絶妙のタイミングで切り替えて、何ら違和感がないようにプロデュースしてくれた方がいらっしゃいました。まさに陰の立役者です。そうした方のお陰で成り立っているということをお伝えいたします。

さて、唐大臣との対談の内容はすでに、沖縄県小児保健協会会報に掲載されていますので、そちらを参照していただくとして、その会報で書き漏らしたことをここに残しておきたいと思います。

対談に臨み、唐大臣について記してある本を2冊読みましたし、ネットからも情報を拾い集めました。その中で印象に残っているのは、唐大臣がシビック

ハッカーであったということです。シビックハッカーというのは、インターネット上で公開されている行政の複雑極まりない書類を、誰にでもわかりやすい形で紹介し、施策へのアクセスの改善と透明性を向上させる活動を行う活動家のことを指します。台湾で学生たちが国会議事堂を占拠した事件がありましたが、その時の状況をリアルタイムで世界に配信し、世論を味方につけた活動にも彼女は関与していたそうです。

こうしたG0V（ゼロガバメント）という組織を構築し、行政施策の透明性を高めるという活動を精力的に行っていた彼女をデジタル担当相に招いた台湾政府の懐の広さにも感動です。行政にとっては、やましいことはなくても、細部を突つかれるのは



台湾のオードリー・タン大臣とWeb対談

手間がかかるわけで、煙たい存在ととらえても無理はないところを、台湾政府は大臣に迎えているのです。もう、このあたりから「敵わない」と思ってしまいます。

自分自身についても徹底して透明性を担保しているそうで、どこで何をし、誰に会い、何をしたかなどすべてを公表しているとのこと。まさに公人の鑑と思います。

また、「誰も置いていかない」という有名なフレーズは、彼女からの発信のようです。一番立場の弱い人の声を直接聞き（行政の仕事）、どうしたらよいかという解決策を考え（アカデミアの仕事）、その解決策を社会実装する（産業界の仕事）という日本で言うところの産官学を実践しているというのも印象に残りました。

対談ではインターネットによって物理的な距離は関係がなくなったとも言っておられました。コロナで入院した家族に会うのに、都会の人は病院に近いから会いに行けるが、離島や中山間部ではなかなか会いに行けない。なのでそこから優先的に高速の

ネット環境を整えて、アクセスを改善していると言っておられました。透明性の担保とアクセスビリティの担保、弱者優先という原則を守っているだけです。実に単純で明快です。だから国民から信頼を得ているのだと思いました。

さらにすごいのは、中高生と定期的に話し合いの場を設けて、彼らから行政への提言を挙げてもらい、良いアイデアは採択して実行に移すという活動を継続して行っていることです。学業成績だけでなくこうした社会に向けた活動も、その学生の評価に含めることで、意欲とやりがいを引き出しているということでした。これはもう敵わないと思いました。彼女が育てた中高生がもう選挙権を持つことでしょう。自分で問題意識を持ち、解決策を提案し、実行に移す若者が確実に増えています。唐大臣から、台湾から学ぶことは多いのではないのでしょうか？

たった1時間の対談でしたが、唐大臣は私の人生に確実に足跡を残しました。もう一度お会いしたいと切に願っています。

第68回日本小児保健協会学術集会報告

第68回日本小児保健協会学術集会（沖縄開催）の総括

沖縄県小児保健協会

副会長 當 間 隆 也

「やっと始まった、、、」

令和3年（2021年）6月18日の9時、宮城会長の開会挨拶で第68回日本小児保健協会学術集会が始まりました。

発表者も参加者も現地にいないWeb開催。今では当たり前になっているWeb開催ですが、紆余曲折を経てなんとか開催に漕ぎつけました。前回学術集会から半年後の開催でもあり、一般演題や参加者が集まるのか不安でしたが、結果は予想を上回る1,000人以上の参加者数。準備委員会、実行委員会、演者や参加者の皆さん、日本小児保健協会のバックアップ、その他関係するたくさんの皆様方のご協力の賜物です。感謝しかありません。本当にありがとうございました。

開催までの道のりを簡単ではありますがお伝えいたします。平成29年（2017年）6月に沖縄開催が承認されました。沖縄県で日本小児保健協会学術集会が行われるのは、昭和57年（1982年）の知念正雄会長以来2度目です。

メインテーマは、「大きな和で育む子どもの未来」。「沖縄」と「大和（やまと）」の心を包括し、「つながること」が基本で大切なことを表しました。

ポスターの作成が結構大変でした。好みは十人十色。フォントや字の大きさ、色、キャラクター、背景、つながるイメージ等喧々諤々議論は白熱し、いつになったら決まるんだろうと気を揉んだものです。結果的に投票で決定し、微調整を経て素晴らしいポスターが出来上がりました。

会場は当初コンベンションセンターを予定していましたが、令和元年（2019年）12月に発生した新型コロナウイルス感染症の影響は凄まじく、結局前年同様2年連続のWeb開催に決定しました。

Web開催に決定したことでプログラム編成がだいぶ変わりました。録画して配信すること（オンデマンド配信）が可能になったことで、講演をお願いしたい先生方のスケジュール調整がちょっと楽になりました。学術集会準備委員会、実行委員会の皆様からたくさんの著明な講師の推薦や企画の提案が増えました。録画の時間調整では難航もありましたが、結果的に大変密度の濃い、充実したプログラムを組むことができました。

台湾のデジタル大臣であるオードリー・タン氏に始まった3つの特別講演はいずれも聞き応えがあり、大切なメッセージがあり、今でも心に残っています。小枝達也日本小児保健協会会長の基調講演、

第68回 The 68th Annual Meeting of the Japanese Society of Child Health
日本小児保健協会学術集会

大きな和で育む子どもの未来

Web開催

リアルタイム配信期間 2021年6月18日(金)～6月20日(日)
オンデマンド配信期間 2021年6月16日(水)～6月30日(水)

会期 宮城 雅也 (公益社団法人 沖縄県小児保健協会会長) 主催・沖縄県小児保健協会

事前参加登録期間: 2021年2月17日(水)～2021年5月20日(木)
演題登録期間: 2021年1月8日(金)～2021年2月26日(金)

公益社団法人 沖縄県小児保健協会
〒901-1105 沖縄県豊原町地蔵原(字)1218-11 第1号
TEL 098-869-4220 FAX 098-869-4252 E-mail: jsch2021@okicongre.jp

<http://www.okinawa-congre.co.jp/jsch2021>

ポスター

13セッション16題の教育講演、COVID19対応を含む10セッション29題のシンポジウム、168題の一般演題、市民公開講座等バラエティーに富んだプログラムに対して、試聴する時間が足りない、もっと試聴する時間が欲しいという要望が多く、オンデマンド配信期間を延長できたのは嬉しいことでした。

歯っぴ〜プロジェクトの成果や生活習慣対策委員会による市民公開講座、周産期医療体制の紹介、チャレンジ企画として行った成人期へつなぐ切れ目のない発達支援の試みなど沖縄独自のプログラムでは、県内の多くの演者の方々に御協力をいただきました。このつながりは、これからの沖縄県小児保健協会の活動においてとても大きな財産になります。

さて、開催ギリギリまで懸念していたのは、小児科専門医単位取得の問題です。Web開催で単位の取得はできるのか？ 日本専門医機構の認定基準の説明は二転三転し、1週間前になってもまだ許可が降りません。開催数日前にようやく許可が降りた時には本当に安堵しました。その後、単位の受講証がダウンロードできない等のトラブルがありましたが速やかに解決したことをご報告いたします。

振り返ると、書ききれないほどまだまだたくさんの方がいました。その都度みんなで話し合い、協力し、まとまって一丸となり、成功裡に学術集会を終えることができました。繰り返しになりますが、ご参加いただきました皆様、関係するたくさんの方々のおかげです。心からありがとうございました。

追記：学会終了後の影響は大きく、以下の原稿があり、市民公開講座は現在でもYouTubeで閲覧可能ですので情報を共有いたします。

- 1) 沖縄県小児科医会会報 第39号 令和3年(2021年)12月 p71-72
第68回日本小児保健協会学術集会を無事終えて
宮城雅也
- 2) 小児歯科臨床 2021年11月号 p6-57
特集：第68回日本小児保健協会学術集会
ー大きな和で育む子どもの未来ー
Web開催「第68回日本小児保健協会学術集会」
について 宮城雅也
沖縄県幼児のむし歯ワーストからの脱却
「親子で歯っぴ〜プロジェクト」の成果について
比嘉千賀子
子どもの食べる機能の気づきと対応 ー小児歯科医としての地域活動ー 加藤真由美
乳幼児の歯や口の機能の発達とその支援について
田村文誉
日本の子どもにおける“からだと心”の試練
ー子どもは「遊び」でヒトになり、人間になるー
野井真吾
子どものむし歯0(ゼロ)へのチャレンジ ー歯科小委員会の取り組みー 野田直美
母子手帳の温故知新：歯科保健の視点を加えて
中村安秀
- 3) YouTube 市民公開講座「子どもの生活習慣がもたらす生活の質」
～沖縄県小児保健協会 子どもの生活習慣対策委員会の取り組み～
沖縄県小児保健協会のホームページ
→ 研修会・セミナー・講習会
→ 市民公開講座のご案内下段の「YouTubeはこちらから」をクリック
<https://www.youtube.com/watch?v=LJ6lXsxxk6LM>